

広報 2017

平成29年

No.879

ちの Chino City

9月号

ちの市議会だより

特集2

フエス
ハケ岳
JOMON
ライフ
テイバル
開催情報

特集 1 茅野どんばんをつくる人たち

【今月の表紙】8月5日、市民による市民のためのお祭り「茅野どんばん」が今年も開催されました。昭和51年にスタートしたこのお祭りは今年で第42回を迎えました。ずっと続いてきた茅野どんばん。昔から変わらないことは「市民全員が楽しめるように」つくること。その思いのために、先頭に立ってどんばんをつくる人たち、縁の下で支える人たちについて特集しました。

特集1 茅野どんばんをつくる人たち



8月5日、市民による市民のためのお祭り「茅野どんばん」が今年も開催されました。昭和51年にスタートしたこのお祭りは今年で第42回を迎えました。

今年も昼の部では、市民館で子どもたちがお仕事体験できるジョブタウン、ぴかぴかの消防車が並んだ消防まつり、姉妹都市などの魅力的な食材が集められた郷土物産市、太鼓や踊りなどが披露される郷土芸能ステージなどが開催されました。市役所前通りでは出店が立ち並ぶ中、神輿、長持ちなどが軽快な掛け声とともに練り歩きます。

夜は茅野どんばんのメインイベント踊りの部。午後6時ころから始まった踊りには約3,000人の市民が集まり、「茅野どんばん」や「ピバどんばん」を踊ります。会場の雰囲気最高潮に達したところ、お祭りはクライマックスを迎え、盛大な花火とともにお祭りは幕を閉じました。

ずっと続いてきた茅野どんばん。昔から変わらないことは「市民全員が楽しめるように」をつくること。その思いのために、先頭に立ってどんばんをつくる人たち、縁の下で支える人たちについて特集しました。



昭和51年 第1回茅野どんばん

どんばんを描く人

↓7月25日に行われた祭典・実行合同委員会



どんばんを考える人

茅野どんばんの事務所開きは4月24日に行われました。この日から事務局をはじめ、どんばんに関わる組織の会議が始まります。各組織には、茅野市のまちづくりに関わる団体や組織、踊りやお囃子に関わる方、諏訪圏青年会議所や消防署、学校など、さまざまな方が関わっています。忙しい合間を縫って会議や準備を進め、当日の楽しい時間をつくり上げます。また、茅野どんばんが終わった後も、次回の茅野どんばんへ向けて反省や引継ぎのための会議があり、どんばんの歴史は受け継がれていきます。

夜の部、日が落ちる頃に灯る「あんどん」は茅野どんばんを象徴するものの一つ。あんどんに描かれた絵をじっくり見たことがありますか？これらは市内の4中学校と2高校の美術部や有志の生徒によって描かれたものです。

各校どんばんから連想されるものを題材に、色とりどりの作品がつけられます。昨年からあんどんの人気投票も始まり、生徒たちの筆にも力が入ります。

集まった作品は、茅野どんばんあんどん部会の皆さんの手で立派なあんどんとなり、踊りの会場を美しく照らしました。



永明中学校美術部が制作した行燈（あんどん）



どんばんを唄う人



茅野どんばん唄い手養成講座の講師を務める坂井美代子さん。民謡の指導者で茅野どんばんの唄い手。養成講座が始まった当初から講師を務め、未来の唄い手を育てています。

茅野どんばんは茅野の唄い手で唄う

茅野どんばん唄い手養成講座が始まったのは5年前。現在、茅野どんばん当日、茅野どんばんの歌を唄う「唄い手」は3人。その内2人は松本市の方とプロの歌手。茅野市の唄い手は坂井さん1人だけ。いわゆるカラオケとは違う、茅野どんばん独特の唄い方ができる唄い手を養成し、未来の茅野どんばんをつくる人材が求められていた中、この講座は始まりました。「地元のこととは地元で」と、茅野市民のお祭りを茅野市民の手でつくるのが理想、と坂井さんは言います。

「初めての受講生で、しっかりと茅野どんばんの歌を聞いて唄っている人は少ない。その人の声を聞いて、その人に合った声の出し方、音程の取り方、唄い方を教える。マニュアルはないので。」養成講座は全6回。一音一音の発声練習から始まり、茅野どんばんの歌を練習します。今年集まった11人の受講生一人一人の歌を聴き、修正点を伝えます。「やるからには講座を重ねるたびうまくなつてほしい。」と参加者全員に熱のこもった指導をします。

この講座の最終目標はどんばん当日夜の踊りが始まる前の30分、舞台の上で唄うこと。「高いところで生演奏の中唄うことはめつたにないこと。それを楽しんでほしい。お祭りですからね。」当日、唄うことの喜び、楽しさを感じてもらいたい。坂井さんの茅野どんばんと歌に対する思いが伝わってきました。



どんばんを踊る人



茅野どんばん最大のイベントは何と言っても夜の踊り。3パターンの曲にそれぞれ踊りがあります。この踊りを教えるのは、踊り指導委員会の皆さんです。踊りが好きという気持ちを持った委員の皆さん。中には40年どんばん踊りに関わっている方もいるそうです。委員会では、企業や団体へ出向く出張講習会や、誰でも参加できる公開講習会を行っています。



委員長の伊藤清子さんにどのような思いで指導されているか尋ねると「どんばんを楽しむためにはまず踊りを覚えること。覚えればきつと楽しいですよ」と語ります。一方で「40年以上前から続くどんばん踊りの基本を伝えていきたい。動きの所作や意味をしっかり伝承したい」と、引き継がれてきた踊りの継承にも熱い思いを感じました。



interview



第42回 茅野どんばん運営室長 飯山 陽一さん

茅野どんばんの運営室とは

基本的には茅野どんばんの各委員会の取りまとめ。茅野どんばんを成功させられるように情報を整理し、会議の準備などを行っています。各委員会が検討した今年のイベントの内容などが実行できるかどうかをチェックしたり、市役所などとの連絡調整なども運営室の仕事です。

運営室での苦労・難しさはありますか

一番苦労することは時間をつくることです。多くの人々が日頃の仕事をしながらうまく時間を作らなければならないからです。ただ歴代の先輩たちも苦労しながらやってきているので、やっただけ自分の成長になっていると感じます。

あとは様々な団体に連絡を取りたくてもなかなか取れないとか、いろんな問い合わせを受けることも大変ですね。

どんな茅野どんばんにしたいという思いをお聞かせください

お祭りってやっぱり楽しいというのが一番。子どもの頃からお祭りは楽しいから来たいもの。今年のテーマにも「楽しい時間」と入れましたが、家族や友だちと共有してもらいたい。楽しかった思い出を一年間持っていてもらって、来年のどんばんにつなげたい。「去年楽しかったからまた行こう」と思えるお祭りになれば、これからもどんばんの歴史は続いていくのかなと思います。今の子どもたちが楽しいと感じたら、大人になったときに自分の子どもにも「楽しいから行こう」と誘ってほしい。そうなればいいお祭りと言えるのではないかなと思いますね。